

環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、
ユニーは企業活動を通して貢献します。

環境方針

ユニー株式会社は

- 1 衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、環境負荷の少ない安全安心な商品及びサービスの提供と店舗開発の推進に努めます。
- 2 全従業員が環境問題に関心を持ち、環境マネジメントシステムを機能させ、運用することにより、汚染の予防及び持続的な改善に努めます。
- 3 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、エコ・ファーストの約束及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、お客様ならびに一般市民・行政機関とパートナーシップをとり、人と環境にやさしい持続可能な社会の実現に努めます。
- 4 持続可能な社会を目指した環境目的及び目標を設定し、営業活動を通じて低炭素社会の実現のために、省エネ型店舗・サプライチェーン全体でのCO₂排出量の削減を目指します。循環型社会実現のために、廃棄物削減やリサイクル推進に努めます。また、容器包装の削減とリサイクル及び環境負荷の少ない容器包装の使用を推進します。自然共生社会実現のために、食品リサイクルループの構築、生態系保全に配慮した商品を販売します。次世代を担う子どもたちに、持続可能な社会について学ぶ環境学習を実施します。
- 5 この環境方針を実行・維持し、また広く一般に開示して、お客様と一緒に、地球環境保全活動及び社会貢献活動を推進します。

2013年2月21日

ユニー株式会社
代表取締役社長

佐古則男



持続可能な社会を目指して

現在のことだけではなく未来に向かって地球環境を壊さずに、
人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、
この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。



エコストア
ピアゴ豊江店

化石燃料の使用削減
エネルギーの節約
カーボンフットプリントの少ない商品
バイオマスの利活用
エコストアの建設

低炭素社会

CO₂など温室効果ガス
発生抑制を目指す社会

自然の恵みを大切にした農業
自然や生物に配慮した商品



エコ野菜

持続可能な社会

リデュース...コピー用紙使用削減
リユース...マイバッグキャンペーン
リサイクル...リサイクルボックス



リサイクル
ステーション

循環型社会

限りある資源を大切に、
3Rを実践する社会

自然共生社会

生物多様性を
実現する社会

エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。
10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、
ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめませんか？

ユニーはエコ・ファースト企業としてユニーグループ・ホールディングスのグループ力を活かして地域に根差した環境・社会貢献に取り組み、持続可能な企業を目指します。



ユニー株式会社 代表取締役社長
佐古則男

ユニーグループ・ホールディングスが2013年2月21日に誕生しました。グループ17企業の多様な企業力を活かしたグループ力で、企業活動を通じた環境社会貢献活動を、さらに進展させ果敢な挑戦を続けます。そしてユニーが2008年に環境大臣と交わした最初の「エコ・ファーストの約束」は2013年3月に達成することができました。そして次の約束を締結し、持続可能な社会を実現していくことを目指しています。次なるユニーの姿を、佐古則男代表取締役社長への百瀬則子環境社会貢献部長によるインタビューで紹介합니다。(インタビュー：2013年6月18日)

エコ・ファースト企業として

百瀬 ユニーが環境先進企業として小売業界で唯一「エコ・ファーストの約束」を環境大臣と交わし、その約束を果たすことができました。特に、最近世界的に問題になっている「食品廃棄物」をリサイクルループにより再生利用できたことは、食品関連事業者として、誇れることです。そしてその功績により第34回食品産業優良企業等表彰環境部門で「農林水産大臣賞」を受賞しました。食品産業の賞を小売業が受賞できたことはとても光栄なことです。

佐古 ユニーが総合小売業界で唯一「エコ・ファースト企業」に選ばれたのは、「地産地消」の食品リサイクルループの推進と環境学習の実施、持続可能な社会の構築に向けた活動、消費者のライフスタイル変革による低炭素社会循環型社会実現の推進、が評価されたからです。

百瀬 こうした環境活動は、ユニーが本業の中から課題を抽出し、店舗で具体化したもので、地域のお客様やNPO、自治体と一緒に進めてきたものです。

特別なことではなく、誰でも参加できる環境貢献を、ユニーに買い物に来ていただければ実現できるということが大切だと考えます。

佐古 環境活動は、日常生活で参画できる

ことが最も活動の広がり期待できると考えています。全店舗での環境学習の定期的な開催が環境活動の広がり定着の鍵です。「エコ・ファーストの約束」の達成は、地域をより良くしたい思いで取引企業・団体やお客様と協働した成果だと、全ての方に感謝します。ホールディングスとして、エコ・ファーストやISO14001(国際標準化機構の発行する環境マネジメントシステムに関する国際規格)に沿ったユニーの取り組みをグループ全社に拡大・共有していくことが、これからの使命だと考えています。

新しい店づくり

地域における店舗の役割を果たす

百瀬 ところで社長に就任されて、ユニーの店舗にどのような抱負を抱いているのでしょうか。またホールディングスのグループの一員としてはいかがでしょうか。

佐古 環境・社会貢献への期待は大きいと考えています。ご来店いただくお客様にバリアフリーは当然のこと、あらゆる客層に安心・安全を届けます。子育て世代への支援として赤ちゃんスペースを見直し、より使いやすくするよう重点的に取り組んでいます。小売業というのは、物とサービスの販売だけでなく、地域にとってのコミュニティの場としての役割もこれからは強く求められてい

ます。また地域の公共の場としての期待もあり、行政や各種団体とのコラボレーションで、さまざまな使い方を提案していきたいですね。

百瀬 特に高齢者へのお買い物サポートとして、名古屋市などでは地域の社会福祉協議会などと連携して、市内巡回バスの停留所にピアゴやアビタの店舗を使ってもらい、小売業ならではの地域活動を行っています。

佐古 我々が目指すのはBuyではなくShoppingです。買い物をお客様の喜びの一つにできるよう、店舗は地域の方々の精神的な充足感を得る場所にしたい。従業員には義務感だけでなくボランティア精神も必要でしょう。

百瀬 2013年3月にボランティア活動に対する「第4回Make a CHANGE Day」の奨励賞をいただきました。店舗周辺の長年の美化活動「全店一斉クリーンアップキャンペーン(1府19県)」が継続・発展性に富む活動だと評価されました。地味な活動を認めてくれたことに、うれしさが込み上げました。

佐古 清掃活動は店舗では当たり前前の活動です。この当たり前のことを誇りに思い継続していくという点で、受賞の意義は大きいですね。

百瀬 本部からの指示ではなく、多くの店舗が少し足を延ばして公園や地下鉄の通路などを清掃しました。通りすがりの方から



「ご苦労様です」「ありがとうございます」と言われ、これが、やらされ感のない取り組みにつながったようです。

ユニーの特徴だと思うのですが、何らかを企画したとき、本部からの指示があるなしに関わらず、自らの意志で全店が実行しますね。

佐古 企業として、誠実さが非常に重要な視点です。その視点を従業員が持っているからこそ、全体活動にスピードが出て徹底することにつながっているのでしょう。環境や社会貢献活動に関しては、何か大々的に画期的なことよりも、地道に誠実に取り組んでいくことが重要ですから。

自治体との包括協定締結 地域社会への貢献

佐古 2011年3月11日の東日本大震災では、被災地への物資の搬送が交通規制によって止められるなど、小売業だけでは支援活動に限界があると感じました。地域社会への貢献を確実に実行するためには行政との連携が欠かせないとして、2011年11月に愛知県と「連携と協力に関する包括協定」を締結しました。2012年には千葉・岐阜・石川・三重・静岡・神奈川県と締結し、現在7県です。行政との相互連携と協力により、サービスの向上と地域の活性化を図ります。地域の安全・安心の確保、観光や県産品の情報発信、地産地消の推進、子育て支援など、多岐にわたります。例えば、災害対策として店の施設を一時避難所として提供する、生活必需品を可能な範囲で調達・配送する、県はその運搬を優先運行する、といったことです。大きな災害時にはいち早くサービスが受けられ、県民の安心につながります。締結がさらなるサービスにつながるよう取り組んでいきます。

百瀬 その他にも、地域社会を豊かにするさまざまな情報発信もしていきたいですね。例えば、認知症への理解を深める活動。各店舗では認知症サポーターの勉強していますが、それだけではなく来店されたお客様にも認知症のことを知っていただき、地域全体で支援する活動、イベントを店舗で開催しています。

佐古 重要なのは、特定の従業員だけが担当するのではなく、従業員一人ひとりがまず勉強に参加すること。学ぶことで、サービスという価値観をどう提供するかと考える発端になりますから。

店舗での取り組みが、地域で高齢者を見

守る体制作り役に役立っていけると嬉しいですね。

ESDへの取り組み

子どもたちへの働きかけ

百瀬 ところで、ESD (Education for Sustainable Development) 国際会議が2014年に愛知・名古屋で開催されます。ESDは、ユネスコが推進している持続可能な開発のための教育のことです。愛知県から協力要請を受けており、これまでの経験を活かし積極的にサポートします。

ユニーでは環境部を設立した翌年2002年から、子ども環境学習を実施しています。それは環境に対する意識は大人になってからはなかなか身につかないと気づいたからです。1年間に3000～4000人の子どもたちが参加する環境学習「エコロお店探検隊」「エコクイズラリー」を開催しています。ポイントは、環境についての知識、知識を行動に移すことを必ずセットにしていること。例えば、牛乳パックを持参しての紙すき教室で葉書を作ります。この体験で紙の再生を実感できます。実感すれば行動につながります。こうした体験を通して、「牛乳パックは、リサイクルするためにお店へ持っていかんだよ」と、リサイクル意識の定着になっているようです。

佐古 私は、それがレベルの高い環境学習だと思うのです。高いレベルとは高度なことではなく、身近なところで具体的なことをきちんと知り、その一歩先をきちんと理解し行動することです。

百瀬 また、小学校や児童館への出前授業も行っています。楽しく学べるように、使い終わった容器などを使ったエコ工作やゲームで「地球に優しいお買い物」をテーマに実施しています。お買い物を通して環境貢献ができる大人になってほしいと期待しています。

佐古 子どもたちには何より経験させることで環境意識が高まります。未来の地球環境をより良くしていくために子どもたちへの働きかけは、とても大切なことです。子ども達やお客さま、従業員に対しても「わかりやすい言葉」で伝え、誠実に取り組んでいくことが重要です。いくら素晴らしいことでもわかりにくければ人は動きません。どうすればわかってもらえ、実現できるのか。未来を生きる子どもたちのために、常に知恵を絞り取り組んでいきたいと思えます。

ホールディングス化への期待

百瀬 今年2月、持株会社ユニーグループ・ホールディングス株式会社が誕生しました。さまざまな事業でのグループ力に大きな期待が寄せられています。

佐古 環境・社会貢献においては、特に期待が大きいと言ってよいでしょう。事業形態は違って、グループとしての価値観がここにありますから。価値観とは「それぞれの店が地域のお客様に対してどう貢献できるか」ということです。

それは、それぞれのグループ企業が扱う商品やサービスがお客様の生活を豊かに最適なものにしていくこと、そのことを従業員が誇りに思えること。

ユニーは今まで成し遂げてきた「環境社会貢献、地域への貢献」をグループ会社に伝え、一緒に活動してシナジー効果を出していくことが、大きな役割だとしています。

例えばグループの力を結集して開発しているプライベートブランド商品の中で「eco! on」は、品質・価格だけではなく、環境にも配慮した商品です。こうした商品をグループ会社で販売することが環境貢献することであり、お客様は「購入することで環境貢献できる」仕組みです。

営業面だけではなく、環境貢献や社会貢献を進めていくことで、企業としての価値を高めていくことも、これからの課題です。

百瀬 ユニーは持続可能な社会を目指してきました。これからはグループ全体で持続可能な社会を構築し、持続可能なユニーグループ・ホールディングスにしていくために、頑張らなければいけませんね。



代表取締役社長 佐古則男（左）
グループ環境社会貢献部長 百瀬剛子（右）



環境活動の歩み 2001年～2013年

- ...社会一般事項
- ...ユニーの全社的事項
- ...ユニーの環境に関する事項
- ...ユニーの社会貢献に関する事項

ユニーに環境部が2001年に設立して以来12年、その間に2005年に愛知県を会場に「愛・地球博」の開催、2010年に愛知、名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」の開催など環境に関する大きな催しがあり、環境に対する関心が広がりました。また2011年の東日本大震災では自然の脅威や人間の開発した科学技術に対する信頼性の揺らぎ、そして命や人の絆の尊さをあらためて実感しました。ユニーでは12年の間に、廃棄物を削減し再生利用を進める循環型社会を事業活動のなかで実施し、さらに低炭素社会を目指し、「テーブルの上の生物多様性」をテーマに自然共生社会を推進しています。これらの活動を振り返り、さらにこれからも「持続可能な社会」をお客様や取引先、関係のある人々と進めていきます。

環境法令施行(食品リサイクル法、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法)
ユニーに環境部を設置
環境レポート第1号を発行
環境理念、方針を制定
マイバッグキャンペーンを開始...スタンプカードと交換でオリジナルショッピングバッグをプレゼント
(スタンプカード回収 / 24万9,802枚)
家電リサイクル回収 / 2万6,243件



ISO14001認証取得への取り組み、
本社事務所サイトでキックオフ
食品リサイクルにチャレンジ



弥富物流センターにリサイクルセンターを開設(店頭回収した容器包装を集積)
エコロお店探検隊をアピタ東海荒尾店、アピタ岡崎北店でも開催

廃棄物計量調査を実施



ISO14001本社事務所
認証取得



2001

2002

2003

2004

ユニーに環境会議を立ち上げ、組織を編成



環境配慮商品を品揃えしお客様が選びやすいようにショーカードを添付



廃棄物庫のごみの分別を開始
食品残さの真空乾燥機を、アピタ岡崎北店、アピタ東海荒尾店に設置

初めてのエコロお店探検隊をアピタ新守山店で開催



マイバッグキャンペーン...レジ袋いりませんカードを全店に設置(スタンプカード回収 / 30万2,260枚)
アピタ環境展をアピタ新守山店で開催



静岡地区本部がISO14001認証取得



愛知県でヒラテ産業、JAあいち海部の食品リサイクルループが完成、エコ野菜売り場をアピタ稲沢店に設置。JAあいち海部で「いちご狩り」と消費者交流会を開催



新入社員教育に「環境教育」を導入
名古屋市エコロジー・ワンデーツアーをユニー黒川店で開催
各商品部で環境配慮商品を販売
食品残さの真空乾燥機をアピタ瀬戸店・アピタ江南西店に設置
あいちクリーンキャンペーンに参加、店舗周辺の清掃活動を全店で実施
廃棄物計量器設置を開始



愛知県で愛・地球博開催
北陸地区本部、関東地区本部
がISO14001認証取得



クールビズを全店で展開、
万博会場でのファッション
ショーに佐々木社長と若手社
員が出演



食品リサイクルループ、「アリ
タさんちの豚」(飼料化)を横
浜市内店舗で開始。三重県の
三功、酵素の里とのリサイク
ルループ開始

夏休み自然探検隊を岐阜県ト
ヨタ白川郷自然学校で開催



本社保管庫のPCB(特別管理
産業廃棄物)を豊田市の処理
工場へ搬出
食育を店舗で開催(アピタ東
海荒尾店)



バイオマスプラスチック製容器
を卵パック、フルーツケースに
導入。農水省の「バイオマス
利活用フロンティア推進事業」
に選定される



ノーレジ袋キャンペーン開始、
レジ袋を使わないお買い物
を推進



家電リサイクルへの対応を評
価され「家電リサイクル券取扱
優良店」に認定される
愛知県の全店舗で「CO₂削減
マニフェスト」を登録
店舗駐車場を利用したパーク
アンドライドの活動が評価さ
れ、ユニー乙川店、アピタ阿
久比店が「自動車エコ事業所
認定証」を授与される
小池環境大臣がアピタ新守山
店の環境活動を視察



2005

2006

2007

レジ袋無料配布中止(有料化)を横浜市、
名古屋市で開始



食品リサイクル法の再生利用事業計画(食
品リサイクルループ)第1号に認定される



アピタ長久手店にエコマネーセンター開設
三重県の三功、酵素の里でお客様に収穫
体験を実施
北陸3県の店舗で地元NPOと協働で子ど
も環境学習を開催



名古屋市で東邦ガスと共催で子ども環境
学習「エコクッキング」を開催
ごみゼロ社会推進あいち県民大会で優良
店としてユニー常滑店とアピタ豊田元町店
が表彰される



ユニーの一般廃棄物・産業廃棄物・リサ
イクルの事業者による第1回環境関連事業
者連絡会を開催



環境デーなごやにてレジ袋有料化を決め、
三者協定を締結

